

事業所自己評価シート

令和7年度

職員による自己評価

A 環境・体制整備

利用定員に対して十分なスペースを確保しており、適正な環境であると考えている。

活動スペースと個別で机に向かって作業するスペースをそれぞれ確保し、活動内容に応じて柔軟に活用できる体制となっている。

B 業務改善・適切な支援の提供

カルチャーズデイ反町では、利用児童一人ひとりの特性や状況に応じた支援を提供するため、日々の記録や職員間の共有を徹底し、支援内容の見直しと改善を継続的に行っている。活動スペースと個別対応スペースを適切に活用し、安心して過ごせる環境を整備するとともに、職員の専門性向上のための研修や振り返りを実施し、質の高い支援の提供に努めている。

C 非常時等の対応

カルチャーズデイ反町では、災害や事故、感染症発生等の非常時に備え、業務継続計画（BCP）を策定し、職員間で周知徹底している。緊急時には児童の安全確保を最優先とし、迅速な避難誘導や保護者への連絡体制を整備している。また、定期的に避難訓練や研修を実施し、非常時においても適切かつ冷静に対応できる体制づくりに努めている。

B 児童への支援内容

カルチャーズデイ反町では、児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援計画に基づき、適切な支援を提供している。安心して過ごせる居場所の提供を基盤とし、遊びや活動を通じて社会性や自己理解を育む支援を行っている。また、個別対応と集団活動を組み合わせることで、コミュニケーション能力や感情への気づきを促し、主体的な成長につなげている。

保護者による評価

A 環境・体制整備

利用児童および保護者から概ね満足をいただいております。安心して過ごせる環境づくりに努めています。児童がリラックスして過ごせる「居場所」としての機能を大切にし、活動スペースや個別対応スペースを適切に整備している。また、職員配置や支援体制についても基準を遵守し、児童一人ひとりに応じた支援が提供できる環境の維持・向上に取り組んでいる。

B 業務改善・適切な支援の提供

保護者からは「子どもが安心して通えている」「気持ちに寄り添った対応をしてもらっている」といった声をいただいております。また、日々の様子や成長について丁寧な共有があり、家庭での関わりにもつながっているとの評価を得ている。いただいた意見や要望については職員間で共有し、支援内容の見直しや業務改善に活かすことで、より適切な支援の提供に努めています。

C 非常時の対応

災害時等に備え、年2回の避難訓練を定期的に行っている。訓練内容については安全確保を最優先に計画・実施しているが、その詳細が保護者へ十分に伝わっていないケースも見受けられる。今後は訓練内容や結果についての周知方法を見直し、保護者への情報共有を強化することで、より安心して利用いただける体制づくりに努めていく。



事業所内での分析

【共通点】

保護者からは「安心して通える居場所となっている」「子どもの気持ちに寄り添った支援が受けられている」といった点で共通した評価を得ている。

【相違点】

一方で、非常時対応や訓練内容の周知については情報共有が十分でないとの声も見られる。今後は、強みである安心できる環境と個別支援を維持しつつ、情報発信の方法を見直し、保護者への周知を強化することで、さらなる支援の質向上につなげていく。

分析・検討してみる

事業所の強み

事業所の改善点

分析・検討の結果、本事業所の強みは、児童が安心して過ごせる「居場所」としての環境づくりと、一人ひとりの特性に応じた個別支援の質の高さにあると考えられる。職員が児童の気持ちに寄り添い、日々の関わりや対話を通じて自己理解や感情への気づきを促している点について、保護者からも高い評価を得ている。こうした支援体制が、児童の主体的な成長につながっている。

分析の結果、非常時の対応や避難訓練の内容について、保護者への情報共有が十分でない点が改善課題として挙げられる。また、支援内容や日々の取り組みについても、より分かりやすく伝える工夫が必要である。今後は、連絡ツールや書面等を活用し情報発信の機会を増やすとともに、保護者との共有を強化することで、安心感の向上と信頼関係のさらなる構築に努めていく。

事業所の改善への取り組み

善課題として挙げられた非常時対応や避難訓練の内容について、保護者への周知強化に取り組んでいく。訓練実施後には内容や児童の様子を記録し、連絡ツールや書面を活用して情報共有を行う体制の整備を進めていく。また、日々の支援内容についても見える化を図り、職員間での共有と振り返りを通じて支援の質の向上につなげていく。

業所名 カルチャーズデイ

担当者 宮城敏浩